

休耕地活用と農産物の生産加工で農業の活性化をめざす (株式会社のぞみ)

＜法人の概要＞

所在地：広島県広島市安佐北区

設 立：平成21年7月15日

資本金：60万円 売上高：300万円（平成23年）

（うち農業：280万円、うち農業関連事業：20万円）

役 員：7名（うち農作業従事6名）

従業員数：13名、うち農業従事者13名

経営面積：1ha 営農作物：広島菜、大根、小カブ、キュウリ等

農業開始時期：23年8月



農場の状況 奥はビニールハウス



農場の状況

＜農業参入に至った経緯・動機＞

農業者の高齢化や後継者不足、中山間地域や都市部周辺地域での農地の減少など農業の問題を解決し、消費者が求めている安全安心で美味しい農産物を安定的に供給するため、取り組みやすい株式会社を設立して農業へ参入した。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

- ・消費地に近い広島市内で、農業委員会から休耕地のあっせんを受けた。
- ・改正農地法で、農地の貸借による農業参入要件が緩和されたことによって、永年取り組めなかった農業問題に取り組めるようになったことは、とてもありがたいことと思っている。また、貸借期間が延長されたことで本格的な農地改良にも取り組めるようになった。
- ・栽培する作物は、農協の意見を参考にして決定した。
- ・農業機械設備は、休耕地内の施設などを無償または割安で購入できた。
- ・休耕地の農地改良から始めたので、最初の出荷まで約3年かかった。
- ・農場を開設した近隣の農家と知人友人や地域内の住民等から理解と協力を得ることが出来た。

<営農開始から現在まで>

最初は、広島菜漬用の原菜を栽培し、漬物業者への販売と広島菜漬としての販売を行ったところ、生産量は当初目標の50%に止まったが品質では高評価を受けた。

栽培技術は、独自の専門技術者を確保し、商品開発や販売などにもスタッフを配置して、会員である消費者の紹介による販路拡大システムを構築するなど独自の販路開拓を行っている。農協とは資材購入のみの関係であるが、営農情報などを受けるなど良好な関係を維持している。また、農場周辺の休耕地の耕作を引き受けることで、遊休設備や機械の提供や、近隣の農家からの助言などを受けるなど地域とも協力関係を形成しつつある。

<今後の農業経営の展開方向>

現在耕作している農場周辺の休耕地を引き受けて、規模拡大を行い、地域の伝統野菜や特徴のある品目の栽培技術開発をめざしていきたい。また、このような農業生産を行いながら、農業者の育成も合わせて行い、ここでの研修の修了者が独立して協力農家となって、グループ全体での規模拡大と品目の多様化を図る計画である。なお、販路は、生産量の拡大にあわせ会員制の直接販売のほかに市場出荷や量販店などへの販売を行い、販路拡大を図っていく見込みである。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

- ・ 設立と運営などの資金確保と、設立に向けての法律や制度について、事前に考慮する必要があります。
- ・ 企業運営には、それを推進していく人材の育成確保が大切です。



鳥獣害防止のためのフェンス

農場が山際にあるため鳥獣害被害防止は、必要不可欠。